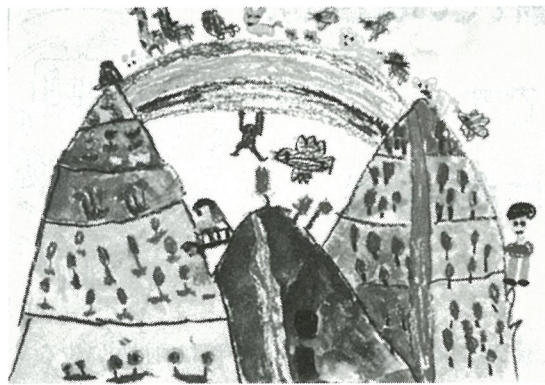




小四 向後一美



4年 向後一美



お話しの絵 にじのはし



2年 さとう あい

我が家は、明治生まれの八十歳から昭和生まれの十一歳までの四世代同居の八人家族です。

物の考え方、価値感の違いからくる事態はさけて通れないのが現実です。こと子供の躰しづけにおいても例外ではない。「三つ子の魂百までも」と言われる成長期において、家庭内における親の位置づけが、どうあるべきかでおのずと変わって来るもの、この歳になって痛感している。

私達が結婚した頃は、多少なりとも嫁も一人の人格者として理解され始めた様

我が家の家庭教育

入川島 正子

シリーズ ④

「親の働く後姿を見て子は育つ」と良く言われますが、私達が成長する時代はそれはそれで物のとらえ方としては良かった様に思います。でも今、時代の流れの早さの中で私自身、疑問を抱かずにはいられません。

親子の信頼感、親子の会話と思いがけなくもなかなか出来ないのが本当のところではないでしょうか。当り前の子供に！当り前の成績で、当り前なりに、皆が思うことではないでしょうか。親として望むこんな簡単なことがなせむずかしいのでしょうか。何も問題が生じなければ、子育てが、教育がと、あえて考え直すこ

でもないはずですが。

核家族が家族構成の上位を示し、縦のつながりの一単位の中で親子感を語るのはいとも簡単かもしれない。

しかし、強い精神力を要求される今、この時代に生き抜いていかなければならない。我が子たちを、私たち親が家庭教育という一言でいい表わし導くにはあまりにも知識が乏しすぎると思います。

教育、親の信念という名の元で子供を押えつけてないだろうか。親が肩をいからせなくても、子供は子供の理解の範囲内で成長をとげているはず。だから私は親としての教育方針は持っています。あえていうならば、子供に好かれる親になりたいと思うことです。自分が今、それだけで親に感謝して良かったと思っているから。



4年 大木 寛子

おじやまします

日吉保育園

六月十六日、日吉保育園のベコちゃんクラブにおじやましました。安全協会婦人部の皆さんのぬいぐるみによる交通指導を受けてから、園庭で信号機のある交差点の渡り方の勉強をしました。

ちよつと止って、右、左、右、手を上げて、車が止つたら渡ります。ちゃんと守り、事故に合わないようによましよう。

